

1 当院における時間外のパニック値報告の
2 現状

3
4 ○市川遼、小林沙織、長島恵子、飯田好江、
5 下村廣道、北沢敏男、永井正樹
6 (国立病院機構千葉医療センター 臨床検査科)

7
8 【はじめに】当院中央検査室では、生化学検査 15
9 項目、血液検査 7 項目にパニック値を設定し、医師
10 に電話報告している。時間外検査帯においてもこの
11 報告を徹底するため、項目・上下限値の周知と、報
12 告内容の台帳記入を義務付けた。今回、時間外検査
13 のパニック値報告について集計した内容、および効
14 果検証を行ったので報告する。

15 【方法と対象】集計期間は 2012 年 11 月から 2013
16 年 10 月の 12 ヶ月間である。この期間内にパニック
17 値報告をした 315 件を対象とした。

18 【結果】パニック値報告の検査項目別上位 5 項目(件
19 数)は Hb(50 件:15.9%)、CK(40 件:12.7%)、WBC(39
20 件:12.4%)、PLT(37 件:11.7%)、K(24 件:7.6%)
21 となった。血液検査項目で最も多かった Hb において、
22 報告後に RCC 輸血のオーダーがあった症例は 23 件
23 (46%)、OPE 後患者が 8 件(16%)で、いずれも翌日
24 には再採血検査が実施されていた。生化学検査で最
25 も多かった CK は CK-MB または CK アイソザイム、ト
26 ロポニン T の追加依頼が 10 件(25%)あり、追加依
27 頼がなかったものは OPE 後の採血検体が大部分を占
28 めていた。K はパニック値報告後に治療がなされて
29 おり、そのうち 2 件(8.3%)は 24 時間以内に死亡。
30 また、2 件(8.3%)に不適正採血による異常高値報
31 告も含まれ、血液ガスでの再検査が行われていた。

32 【考察】日当直者にパニック値対象項目の周知と台
33 帳記入を義務付けることで、パニック値報告の意識
34 づけと漏れがなくなっただけでなく、技師による個
35 人差をなくすことにも繋がったと考えられる。また、
36 不適正採血の見極めや患者状態の把握に努め、無用
37 な報告を減らすことを今後の課題とし、更なるパ
38 ニック値報告の質向上を図りたい。

39 連絡先: 043-251-5311 (内線 3620)